



First Friends Emergency Vehicles Set

私たちが助けてくれる人々になりきるごっこ遊びです。言葉の発達、共感する力、救助のお話の出来事を順序立てる力、少人数で協力して遊ぶ力を支えます。

内容

フィギュア付き乗り物3台

対象市場

家庭・教育の両方

■ セットの内容



First Friends Police Car

24 × 19 × 18 cm



First Friends Fire Engine

24 × 19 × 18 cm



First Friends Ambulance

24 × 19 × 18 cm

■ 子どもが学ぶこと

言葉

警察、消防、救急車、サイレン、レスキュー、けが、安全。カードではなく、乗り物と一緒に身につく言葉です。



世界を知る

困ったときに誰が助けてくれるのか、何に乗って来るのか、どこへ連れていってくれるのか。



順序立て

呼ぶ、走る、着く、助ける、帰る。レスキューは順序のある物語で、はじめての物語づくりです。



社会性

1人1台の乗り物と、一緒に解決する1つの問題。順番を待つこと、誰が先に行くかを話し合うことを学びます。



手先の器用さ

フィギュアを座らせる、ドアをあける、手足をカチッと動かしてポーズをとる、いすの脚をよけてハンドルを切る。



感情リテラシー

誰かが怖がっていたり、けがをしていたり、迷子になっていたりとすると、助ける人がやって来ます。安心できるごっこ遊びの中で、人を助ける練習ができます。

■ テーマ

私たちが助けてくれる人

安全に過ごす

緊急事態

私たちの地域

病院

消防署

乗り物



Learning through play

ひとつのセットで5年間遊べる



セットの4つの使い方

ひとりで発見する：12か月以上
床に乗り物1台とそのフィギュア。入れる、出す、押す、サイレン。ほかには何も要りません。

大人と2人で遊ぶ：18か月以上
名前を言い、走らせ、止めます。大人が問題を出し、子どもが助ける人を選びます。

少人数グループ：3～5歳
1人1台の乗り物。レスキューを順番に演じ、語り直します。順番を待つことが、お話の中に組み込まれています。

常設の遊びコーナー
道路マット、積み木、First Friendsのおうちと一緒に出しておくと、「私たちを助けてくれる人」のテーマ全体に使えます。

保育の現場で

フィギュアは12.5 cm。小さな部品なし、歯固めにも安心

拭いてきれいにできます。砂のトレイや屋外での遊びにも使えます

乗り物3台が深いトレイ1つに収まります。フィギュアは座席に収まったままです

3人の子どもに1人1台、または1人で1セット

観察のポイント

☐ フィギュアは回して座らせますか？ それとも力ずくですか？

☐ 問題に合わせて正しい助け手を選び、その理由を言えますか？

☐ フィギュアに、指示、なぐさめ、質問などの言葉を与えていますか？

☐ 乗り物の名前を言い、何のためのものかを説明できますか？

☐ 遊んだとおりの順番で、レスキューを語り直せますか？

☐ 動く前に、ほかの子の乗り物が着くのを待てますか？

学びの領域

身体の発達

コミュニケーションと言葉

人間関係と心の発達

身近な世界の理解

数学

表現活動

セットを広げる

それぞれの乗り物を運転する人々や、町の暮らしを支える乗り物を加えましょう。また、First Friendsのおうちを組み合わせて、救急車が家まで送り届ける場所にすることもできます。

First Friends Firefighter

First Friends Policeman

First Friends Garbage Truck

First Friends Road Worker



1 入れる、出す

12〜24か月
子ども1人+大人

用意するもの

乗り物1台とそのフィギュア。

進め方

1. 乗り物を見せます。フィギュアを持ち上げて取り出し、「外へ」と言って渡します。
2. 手のひらを開いて返してもらいます。フィギュアを中に入れ、「中へ」と言います。
3. お子様にも試してもらいます。フィギュアの向きを変え、座席にすくとんと収まるようにします。
4. フィギュアを乗せたまま、乗り物を少し押します。「出発しんこう」と言います。

学びのねらい

手先の器用さ

入れる・出す

名前を言う

原因と結果

やさしく ― 大人がフィギュアを座らせ、子どもが乗り物を押します。
難しく ― 乗り物2台、フィギュア2体。それぞれの運転手は、正しい乗り物に戻れますか？

注目ポイント

お子様はフィギュアの向きを変えて座席に合わせますか？ それとも力を入れて押し込みますか？ 向きを変えて合わせることは問題解決の力を示しますが、力任せに押し込む段階では、まだその力は十分に表れていません。

2 ウーウー

18か月〜3歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

乗り物3台すべて。床の道、またはマスキングテープの帯。

進め方

1. 乗り物を並べます。1台ずつ名前を言い、一緒に音を出します。
2. 「消防車が来るよ」と言うと、子どもが音を出しながら道を走らせます。
3. 最後に「止まれ」と声をかけます。「誰が乗ってる？」「何をするの？」と尋ねます。
4. どの乗り物でもくり返します。そのあと、次の乗り物を子どもに呼んでもらいます。

学びのねらい

語彙

聞く力

全身運動

止まる、進む

やさしく ― 乗り物は1台ずつ。大人が音を出し、子どもが走らせます。

難しく ― 乗り物ではなく仕事を言います。「だれかがけがをしたよ」。どの乗り物が行く？

注目ポイント

名前と音が一緒に出ているか、その言葉で止まっているかに耳を傾けましょう。促されずに仕事を言えるのが、次のステップです。

3 誰が助けに来る？

2〜4歳
子ども2〜4人+大人

用意するもの

乗り物3台すべて。簡単な小道具3つ（火事に見立てた赤い布、包帯を巻いたティベア、犬のおもちゃ）。

進め方

1. 乗り物を真ん中に置き、もう一度みんなで名前を言います。
2. 問題を1つ見せます。「誰を呼ぼうか？」と尋ね、考える時間をとります。指さしても受け止めます。
3. 乗り物を選んだ子が、その乗り物を現場まで走らせ、次に何が起るかを話します。
4. ほかの乗り物も助けに来られるか尋ねてみましょう。たいていの緊急事態は、1台だけでは解決しません。

学びのねらい

マッチング

推論

順番を待つ

世界を知る

やさしく ― 乗り物2台と、とてもわかりやすい問題を2つ用意します。

難しく ― なぜそう思うのか、どんな順番で到着するべきかを尋ねます。

注目ポイント

いつも同じ乗り物を選ぶ子は、判断ではなく好みを示しているのかもしれない。その理由を言葉にするよう促してみましょう。



4 レスキューをやり遂げよう

3〜5歳
子ども2〜3人+大人

用意するもの

乗り物とフィギュアのすべて。布や箱で目印をつけた病院コーナーと消防署コーナー。

進め方

1. お話を決めます。問題はどこにあって、誰を呼ぶ？
2. 順番に演じます。呼ぶ、走る、到着、助ける、帰る。
3. 終わったら「はじめに何が起きた？ それから？」と尋ね、子どもたちに1つずつ話してもらいます。
4. 子どもが乗り物を交代して、もう一度演じます。

学びのねらい

順序立て お話づくり ごっこ遊び 協力

やさしく — 3ステップだけにします。呼ぶ、走る、助ける。

難しく — 新たな問題を加えます。道がふさがれている、または2人が同時に助けを必要としている、といった状況です。

注目ポイント

出来事を正しい順番で語り直せますか？ たった今演じたお話を順序立てることは、遊びから物語への橋渡しになります。

5 助け手は何人？

3〜5歳
子ども1〜3人+大人

用意するもの

乗り物とフィギュアのすべて。あれば1〜6の数字カード。

進め方

1. ひとつずつ触れながら、乗り物を一緒に数えます。次にフィギュアを数えます。
2. 「乗り物とフィギュア、どちらが多い？」と尋ねます。並べて確かめます。
3. 1台の車輪を数え、3台分では何個か予想してから、数えます。
4. 数字カードをめくり、その数ぴったりのフィギュアを消防車の後ろに乗せます。

学びのねらい

数える 1対1対応 比べる 数の言葉

やさしく — 乗り物だけで、1から3まで数えます。

難しく — 2台分の車輪はいくつ？ 予想してから、数えます。

注目ポイント

最後に言った数がそのまま全部の数として使われているか、耳を傾けましょう。これが基数の原理で、大きな節目です。

6 きっとだいじょうぶ

3〜5歳
子ども2〜4人+大人

用意するもの

救急車ともう1台。フィギュア2体（助ける人と、助けが必要な人）。

進め方

1. 場面をつくります。このFirst Friendがブランコから落ちて、泣いています。
2. 救急車が着きます。「助ける人は、最初に何と言うかな？」と尋ねます。
3. フィギュアで演じます。言葉、様子を確かめること、救急車に乗せること。
4. 「友だちは今、どんな気持ちかな？」「どうしたら安心できる？」と尋ねます。

学びのねらい

気持ち 思いやり 言葉 ごっこ遊び

やさしく — 大人が助ける人の声を、子どもが友だちの声を担当します。

難しく — 役を交代し、心配する保護者のフィギュアを加えて、その人も安心させます。

注目ポイント

促されなくても、なぐさめの言葉が出るか耳を傾けましょう。助ける人のすることから、助ける人の言葉へ進む子は、相手の気持ちを考えています。

